



No. 2688
2014年12月25日
発行責任者 大沼 元
編集責任者 武田 昌仙

地域が町が消滅・・・

国、東電は責任を取れ 国労フクシマ交流・視察学習会

国労本部の主催による「国労フクシマ交流・視察学習会」が、11月29日～30日の日程で開催された。昨年に続き、第二回目となる被災地での視察学習会には、北海道から九州まで全国の組合員ら43人が参加した。また二日目の取組みである交流学習会は郡山市内ホテルプリシードで行われ、水戸地本福島支部や仙台地本福島支部の組合員ら総勢130人が会場に足を運び、原発の現状や放射能汚染の問題など環境や人的被害に至るまで多岐にわたる課題について学び合った。

味も臭いもない放射能

11月29日 現地視察

視察団は仙台市内から、JRバス東北の観光バスを仕立て、福島駅前西口を最終合流点とし、29日11時30過ぎに出発。本日の主な視察地点は原ノ町・小高・浪江の各駅と常磐線沿線で、被災後の現状とまた国道6号線開通による交通事情等の観察である。

川俣町を過ぎ飯館村に入ると、除染物が詰め込まれた黒や青色の塊（コンパック）が目につくようになる。同時に社内には2個ある線量計がにわかに鳴りだした。車載の線量計は0.3μSv以上から警告音が発せられるという。個人的には緊張感が高まっているのだが、周りにいる視察経験者にはさほど感じられない。



留置されたままのスーパーひたち（原ノ町駅）



大地震でずれた橋脚

横道に逸れたが、「危険だぞ」の警告音が、始終鳴りっぱなしだと危険とは感じにくくなり、怖い事だ。なにせ相手は放射能だ。味も臭いもなく、線量計がなければその存在にさえ気がつかない。「警笛を鳴らし接近する列車」とは勝手が違うのである。

バスは原ノ町駅前に到着し若干の休憩。駅構内を跨ぐ人道橋に上ると煤けたような汚れが付着したスーパーひたちが震災時からの姿を見せる。動く当てのない金属の塊は沈黙を守ったままどこか寂しげだ。

さらにバスは運転見合わせ区域の原ノ町以南へ進む。予定の小高駅は、大型バスの取り回しを考慮して、今回は見送ることに。6号線を南下し浪江を目指す。時折視界に入る線路沿線は、支持物が壊れ架線が垂下している箇所もあり、地震の威力を目の当たりにする。東北自動車支部の大倉元委員長のご自宅前を通過し線路近接地で下車。線路に目をやれば、橋梁の橋桁が、



浪江駅前の灯具は落ちたまま

達磨落としの様にズレている。穏やかな田畑の風景とは裏腹に、線量計は1μSvを超えてきた。更に移動した浪江駅前には人の気配がなく廃墟の町と化している。時折工事用の大型車両が通過するのみだ。失礼を承知の上で言わせてもらえば、一つの「町」という単位の地域が消滅したと表現できる。こんなことが許されるのか。「コントロールしている」と言い放った総理大臣の顔が浮かぶ。国と東京電力は責任を取らなければならないと強く感じる。

自己責任において通行が許された6号線（歩行・バイク不可、駐停車禁止）を更に南下し双葉町と大熊町、富岡町から橋本町に入ると「あれが東京電力福島第二原発」と坂本福島支部長から説明があり、車内の緊張感は一気に高まる。線量計の数値が4から10μSvの間でランダムに読み上げられる。なぜか呼吸が浅くなる。常磐道の広野I・Cから専用道路に乗り、磐越道を經由して郡山に到着。夕食を交えた交流会では、それぞれの参加動機や感想を述べてもらい、より一層懇親を深めあった。

翌日の30日の午前中は、ホテルプリシードで視察参加者による学習会が企画され、始めに狩野光昭いわき市義（国労議員団）より、「フクシマの現状と取組み」と題した報告を受けた。続いて水戸地方本部坂本福島支部長からは「常磐線復旧をはじめとした現状と取組み」と題した報告を受け、参加者からは現在の福島県民の実情や苦悩、また鉄道沿線の状況やそこに働く者の実態についても学び合った。引き続き、午後の現地集會は、水戸地本46人と仙台地本55人の組合員らが参加して開催された。

主催者を代表し、本部菊地書記長は、「帰還の動きもあるが、本当に安全・安心なのか疑問。目で見たと聞いたことを全国に広げを広げよう」とあいさつ。講演では、大内良勝氏（福島県平和フォーラム事務局次長）と吉田有沙氏（前高校生平和大使）がそれぞれの視点から意見を述べた。（吉田さんの報告のほんの一部だが掲載する）

吉田有沙さん報告抜粋
「（前略）原発、放射能についても様々な考えや思いのあることは分かっています。でも、今を作る大人の方々に本当にすべき、正しい選択をして欲しいです。
犠牲のもとに成り立つ豊かさは本当に必要ですか：命を脅かす様な便利さは本当に必要ですか：
私は今を築くのが大人で、未来を築くのが若者だと思っています。ですから、今を築く大人の方々に、子供たちが明るい未来を築けるような道標を作る責任があると思います。
これから先、生まれてくる新しい命や、震災後の世界に知らない子供たちが、本当に暮らしやすい未来をつくるために、正しい選択をしてください。
これから先続く未来をずっと考えてみてください。
ほんの少しの時間でもいいです。大切な方と一緒に考えてください。（後略）」

各地方からの報告

また、原発立地関係地本（米子・盛岡・新潟・静岡・北海道・四国・九州）からそれぞれの闘いの現状などの報告を受け、認識を深めあった。最後に本部菊地書記長がまとめを行い団結頑張りうで終了した。【昌】

- 12・10 第3回地方執行委員会
- 12・13 第1回春闘事務局会議
- 12・13 第56回地本アスベスト対策委員会
- 12・20 第44回安プロ・第35回支部長合同会議
- 12・25 団交（15年3月ダイヤ改正支社提案）
- 合理化対策会議

郡山設備分会が発足

11月12日、郡山市ビックアイにおいて、郡山設備分会結成大会が開催された。郡山保線区分会・郡山信通区分会・郡山電力技セ分会・福島建築分会の4分会を統合し、組合員数42人の「郡山設備分会」として発足した。【報告・村田通信員】

もう一度奮闘を

結成大会では、星議長を選出し、冒頭、堀口設立準備会代表は「この間、郡連協の総会においても各分会から分会統合の意見が出されてきた。今年3月27日に分会代表を招集し、以降議論を重ね今日を迎えることができた。各分会も40年以上の歴史があり、多くの困難を乗り越えて国労運動を継承してきた。問題は山積

◆郡山設備分会役員

執行委員長 堀口裕一
(郡山信号通信班)
新白河MC

執行副委員長 若竹敏男
(福島建築班)
BT郡山(エルダー)

書記長 小松山聡
(郡山保線班)
郡山保技術センター

執行委員 大橋康
(郡山信号通信班) 郡山MC

執行委員 高橋巧卓
(郡山新幹線保線班)

執行委員 伊倉伊美夫
(郡山電力班) 新白河MC

執行委員 鈴木久幸
(郡山信号通信班)

執行委員 代田清
(郡山信号通信班)

会計監査 加藤充彦
(郡山新幹線保線班)



安プロ・業長 会議から

その後、14年度運動方針(案)が提起され、今後一年間の諸課題、財政の確立、当面の運動の展開、規約、財政と予算が承認された。旧分会代表からそれぞれ決意表明を受けた後、初代執行委員長に選出された、堀口委員長の団結頑張ろうで閉会した。

◆ビックロモの故障時、モーターカーで牽引は可能だが

推進(押し進め)は禁止と説明された箇所もある。救援方法が根本的に変わることであり、説明が必要。

◆12月3日の仙山線事故では、山形保技セの初動が極めて遅く、要員確保や復旧体制を整える様子もなかった。またMCRの運転手等P会社頼り一辺倒。メンテナンス体制のツケが如実に

仲間の異動

◆一般異動

12月1日付

菊地 尚一さん

テクノ福島→テクノ郡山

現れた。(保線)

◆磐越東線・大越駅機器室の発動発電機の燃料ホースに亀裂があり約90ℓ燃料漏れ。同種設備の点検・確認が必要。また排気管と床材にアスベストが使用されている。職場で改善を要求しているが進捗がない。今後対策委員会に相談が必要。(信通)

◆太子堂駅でのTSS女子社員の労働環境。女子トイレ・休養室がない状態で泊まり勤務を実施。改善を求め、年度内に改善の見込み。

◆郡山駅の一部業務委託。異常時対応訓練がされていないので求めていく。(駅・営業)

◆幹線の車両。アスベストが使用されており、解体す

退職のお知らせ

11月30日付

高橋 健悦さん

東工所 JRコンサルタンツ

小林 捨三さん

仙・宮運輸区 テクノ利府

加藤 修司さん

新庄連合

○エルダー・嘱託退職

鈴木 健次さん

福島地区(駅) (テクノ福島)

稲村 英雄さん

若松地区 (仙建若松)

長い間お疲れ様でした

と飛散の恐れ。総務科と話をしている。14年総合車セ業務改善の見極め。要求を集約し申を提出する。(工場)

◆仙山線倒木による架線支障事故後、奥羽本線庭坂、関根間と仙山線作並山寺間で巡視強化と機械除雪への添乗する旨の文書が設備部(仙台電力技セ長名でも同文書)から12月10日に出された。着雪注意報が発令されれば除雪機械運転と添乗が発令される内容。12月15日から既に4回添乗しており、長時間添乗(最大12時間)で疲労困憊、要員逼迫で現場は悲鳴。相談なしでトップダウン。改善を求める。(電力)

反省し前進しよう

▼師走に入り、風邪を引いた。この数年、いやそれ以上か、風邪らしきものを患った記憶がなく、久しぶりに骨身にこたえた。「たかが風邪で」と大病と闘った経験者や現に闘い続けている方から「たかやうに付されよう」だ人それぞれに、感じ方や事の大小の受け止め方は違う。それゆえに私たちが組織人は、生まずたゆまず議論し続け、よりよい道を選択すべく努力しなければならぬ。また組織は時に人を呑み込み、己の意とは反した方向に進むこともままある。その時どう対処するか。難しい事ではあるが、しかし避けては通れない道でもある。▼小生の場合では、残念ながら対処しきれず反省することしきりであるが、周りの意見に耳を傾ける謙虚さは失わずにいたい。謙虚な反省をなくしては、前進することすら難しい。た歩を進めよう。【昌】



政権が目指す未来予想図が透けて見えそうな結果だ。ただ確かに結果は出たが、最終結論ではない。経過・通過点である。負け惜しみではなく、これまで幾多の負けを経験してきたからこそ思っている。我々の粘り強さは筋金入りだ。負けの経験は明日に活かす術も持ち得ている。怖いものはない。むしろ恐れているのは砂上の楼閣に潜む相手側でないか。仲間と共に手を携え、スクラムを組み、明日から

お知らせ

◆2015春闘勝利活動家交流集会

1月11日(日) 10時30分～16時

仙台市 ホテル法華クラブ

◆地本組織強化対策会議

1月17日(土) 13時～18日(日) 12時

松島町 ホテル松島大観荘